

平成28年度小松島市事務事業評価シート

■事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4 - 3 - 3
事務事業名	日峯大神子広域公園（脇谷地区）整備事業			担当課係	まちづくり推進課 公園・下水道担当
総合計画上の位置付け	大項目	1. 「安全」のまちづくり		記入担当者	
	中項目	①災害被害の減少		内線等	
	小項目	3. 地震や津波の被害を軽減する減災のまちづくり		E-mail	
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）			事業区分	臨時事業
事業予算費目	款	8	土木費	項	7 都市計画費
	目	2	公園費	事業	3 日峯大神子広域公園（脇谷地区）整備事業
開始年度	平成28	年度	根拠法令・要綱等	都市計画法、都市緑地法、都市公園法等	

事業の対象	（誰の、何のために事業を実施するのか） 市民をはじめ多くの人が利用する、市総合グラウンドを含む日峯大神子広域公園（脇谷地区）の約3.3ha				
事業の目的 （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 昭和28年の開設以来、64年が経過し老朽化による損傷が著しい各施設の再編・再整備を行い、市民の健康促進や憩いの場、また津波災害時における避難場所など防災活動拠点施設を市民に安定的に提供するため、事業区域の用地取得及び都市公園施設等の再整備を行う。				
事業の内容 （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 本区域を市が設置・管理する都市公園として再整備を実施するために、平成28年3月に「都市公園条例」を定め、また、都市計画事業の認可取得及び国の社会資本整備総合交付金（都市公園等事業）の採択を平成28年度から平成34年度までの7年間で受けて、今年度は基本設計業務を行うとともに施設の空間構成等基本方針を定める検討会議を開催する。また、用地取得に必要な権利者調査及び地積更正登記・地図訂正・不動産鑑定評価業務を行いながら、地権者との用地交渉を進める。				
事業の背景 （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 昭和28年に開催された第8回国民体育大会（秋季）の軟式野球場等の主会場として開設以来、様々なスポーツ・運動、レクリエーション、イベント等に利用されてきた。しかし、公園開設後長期間が経過し、施設等の老朽化による劣化が著しく、改築が必要なことに加え、バリアフリーへの対応や、津波災害時の防災拠点としての機能などの必要性が高まっており、効率的で効果的な公園の再整備が求められている。				

■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標		指標名		指標の説明				指標化できない成果
		H27	H28	H29	H30	目標年度 目標値		
成果指標	単位							都市公園再整備に関する事業で、主な業務は用地取得及び施設整備であり、整備後の利用者目標等の設定は可能だが、整備中の指標の設定は困難。
	目標							
	実績							
	達成度							
活動実績・参考となる指標	指標名	単位	計画	H27	H28	H29	H30	指標の説明
			実績					
			計画					
			実績					
			計画					
			実績					

■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

全体コスト（円）		27年度決算		28年度決算		28年度予算		29年度予算	
関連事業費	A	直接事業費	5,100,840	15,874,280	19,001,000	325,900,000			
	財源内訳	国県支出金	0	5,669,000					
		地方債	0	5,000,000					
		利用者負担	0	0					
		一般財源	5,100,840	5,205,280					
	B	人件費 ①×②	7,609,219	9,874,707					
	職員平均人件費①	6,917,472	6,583,138						
	従事した割合②/人	1.10	1.50						
	A + B	12,710,059	25,748,987						
単位コスト	活動指標の説明						備考		
	活動指標1単位当たりコスト						平成27年4月1日現在 人口39,866人		
	市民一人あたりのコスト		319	654			平成28年4月1日現在 人口39,358人		

■事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 国の社会資本整備総合交付金(補助金)については、2020東京オリンピック・パラリンピックの施設整備を優先することが想定され、同大会が終了するまでの間は必要額の交付金確保が厳しいものとなる。 県内でも、徳島県が整備する大規模公園整備(鳴門・蔵本・阿南)が重点的に配分される傾向にあるため本市としては、さらに厳しい状況にあるといえる。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 過去に実施した各種アンケート調査でも、運動・健康づくりや子供を安心して遊ばせられる公園の要望も高く、また、防災に寄与する施設の必要性の要望も高い。 事業の進捗・将来像などの説明を求める声や要望等の声も多く、市民の関心が非常に高い。

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果(該当にチェック)	判断理由・評価コメント(具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="radio"/> ① 必要性が高い	市街地の都市化が進む中、市民の健康増進・憩い・環境学習等を提供することができ、また、災害発生時には避難機能はもとより、大型ヘリコプターの降着機能を備えた復旧・復興支援の拠点機能を持つ本公園を再整備することは、市民の生命を守ることに加え、市民の心身の健康を促すためにも重要な事業といえる。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば必要性がある	
	<input type="radio"/> ③ 必要性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="radio"/> ① 市が行わないといけない	本区域は、市が設置・管理を行う小松島市の都市公園であるため、市が行う必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば市で実施	
	<input type="radio"/> ③ 必然性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="radio"/> ① 効率的である	施設の主な空間構成の議論は施設整備検討会議で行ったが、今後は、利用者の意見も参考にしながら、施設の詳細設計や各段階の整備工事において、コスト意識を持って事業に取り組んでいく必要がある。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば非効率的	
	<input type="radio"/> ④ 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="radio"/> ① 緊急性が高い	経年劣化による施設の損傷が激しく、利用休止にしている設備もある。また施設自体は倒壊等による危険性が増大しており、利用者の安全確保が図れなくなっていることや、南海トラフ巨大地震などの災害時に市民の命を守る機能が市内に十分でないことから、事業の緊急性は高い。
	<input type="radio"/> ② 比較的緊急性がある	
	<input type="radio"/> ③ 緊急性が低い	
	<input type="radio"/> ④ 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="radio"/> ① 成果が上がっている	今年度から事業認可および補助事業採択を受け、用地取得及び施設整備の設計業務に取り組んでいる。用地に関しては、権利調査・地積更正登記及び地図訂正、不動産鑑定評価業務に取り組み、施設整備に関しては、基本設計業務と併行し、主な施設の空間構成、景観、意匠等の基本方針を定める有識者会議を3回開催し方向性を定めた。
	<input type="radio"/> ② どちらかといえば上がっている	
	<input type="radio"/> ③ どちらかといえば上がっていない	
	<input type="radio"/> ④ 成果は上がっていない	
今後の課題	用地について、補償額を提示し用地交渉に入っていくとともに、施設整備についてもスポーツ施設の利用者や地域住民、市民などの意見を反映した詳細設計業務に取り組む必要がある。しかし、国の動向等で厳しい国費配分となる可能性が高いため、年度毎に計画の見直しが必要となる。 また、地権者の方々には、長年の借地等の経緯もあり、丁寧に用地交渉をしていく予定であるが、交渉が順調に進まないことや施設内の既存施設の補償などへの対応が必要となってくる。	

■一次評価(評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	1	事務事業の方向性		80点以上	評価点による判定	判定に至った理由
		1 拡充する	2 現状のまま継続する			
1	2	3 改善・効率化し継続	4 終期設定し終了	5 完了・休止・廃止	86	事業規模も大きく、健康増進、災害からの復旧復興拠点など期待される効果も大きく重要な事業である。国費の配分によって事業の進捗状況が左右される可能性もあるが、用地取得、施設整備ともに課題が山積であるため、関係する担当が一丸となって課題解決に取り組む必要がある。
	2	3	4	5		
	3	4	5			
	4	5				
	5					

■改善・効率化の方向性 ※一次評価の判定が3の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

■二次評価(所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	1	事務事業の方向性		判定説明
		1 拡充する	2 現状のまま継続する	
1	3	4	5	市民の安全・安心に寄与する事業であり、市民のみならず関係者からの期待度も高い重要事業である。用地取得・施設整備とも課題が山積し、丁寧に解決していく必要があるとともに地元を含め市民の意見・要望などについて、精査する必要もあるが、緊急性も高いため、関係者間で情報共有し、丁寧に確実に事業を進めること。
	3	4	5	
	4	5		
	5			
	5			